

学校司書として働いて

登別市立小学校学校司書 田鍋佳奈

京都ノートルダム女子大学を2015年3月に卒業し、北海道の日高町立門別図書館郷土資料館で臨時司書として2年間勤務していました。その後、実家のある壮瞥町から近い登別市で学校司書の募集を知り、面接試験を受けました。晴れて合格し、2017年4月に登別市内の小学校の嘱託学校司書として採用されました。

1. 登別市の学校司書

登別市は北海道中南部に位置し、人口約47,000人。2013年より第3次登別市子ども読書活動推進計画の策定にあたり、学校司書の配置が進められました。登別市には小学校8校、中学校6校あり、学校司書が配置されているのは小学校のみです。学校図書館は登別市立図書館とも連携しており、月に2回、登別市立図書館から移動図書館車のこぐま号が来校してきます。登別市だけでなく、西胆振地域にある3市（登別市・室蘭市・伊達市）の図書館で相互貸出しているため、幅広く各館を利用することができます。

学校司書の人員は4人であり、勤務校は2校掛持ちとなっています。私が最初に勤務したのが、児童数300人程の登別市立若草小学校と、70人程の登別市立幌別東小学校でした。2020年4月から児童数400人ほどの登別市立富岸小学校へ異動し、幌別東小学校と並行して、今年の4月で5年目を迎えます。



2. 学校司書の仕事

2校の図書館を担当するため、どちらかの小学校に週3と週2という勤務体制で、偏りがないように図書業務を行います。掛け持つ学校は、規模も取り組みも異なるため、各校に合った読書活動を実施するよう心掛けます。月に一度、3人の司書と市教委が集まり、読書活動や図書業務を報告し合う、学校司書連絡会議が行われます。そこで知り得た助言や

アドバイスは、今後の活動の参考になり、より効率よく図書業務を行える貴重な時間になります。図書業務（図書オリエンテーション、図書の購入、蔵書点検、相互貸出、お便りの発行、除籍）の他に、保護者による図書ボランティアと環境整備や読み聞かせを行っています。また、長期休業中には図書館を開放し、本の貸出返却を行い、ALTと連携して図書館で英語の絵本を読み聞かせするイベントも実施しています。この活動以外に、朝読書の時間を使い、児童の多読を推進する取り組みに力を入れています。最近は児童の読書量は増えた一方で、肝心の内容に関心を抱く時間が作れないという課題があります。今後は、児童の読書力を高めるだけでなく、本の内容に触れる楽しさを伝えていき、コミュニケーションへ繋がる工夫を考えていきます。

3. 学校司書として勤めてみて

登別市では、学校司書の配置実施が進んでいても、実際の学校現場では学校司書の理解が浸透していない現実がありました。学校司書とはどのような存在で、図書活動や児童をどこまで任せればいいのか等、教員の中には、接し方がわからないという声がありました。そのため、司書の発信力と行動力が最も重要になってきます。司書の方から積極的に声をかけ、活動においてもあくまで学校の教育方針の進み具合に合わせて、無理のない形で配慮しながら実施してきました。その活動を図書便りで発信することで、教員や保護者からの信頼も得て、少しずつ仕事を任せて貰えるようになりました。今では教員たちと相談しながら、読書活動を実施しています。もっとも初歩的な助言かもしれませんが、専門的な活動もさることながら、周りへの配慮やコミュニケーションを大事にすることが、より質の高い読書活動に繋がります。今後は、学校図書館を学ぶ場としての利用だけでなく、様々な事情を抱える児童の拠り所としての役割もさらに努めていきたいです。そのためにも、日常の中で児童とのふれあいや会話を大切に、過ごしやすい充実した環境づくりを目指しています。

皆さんが一生懸命学んでいる図書館の理念や条例は、将来現場での対応で必要になる日が必ず来ます。司書として守らなければならない理念を軸にし、それを踏まえた上で、臨機応変に対応していく柔軟さが重要です。

(人間文化学科卒業生)